

第1回 福井市下水道事業経営戦略策定審議委員会 議事録

日 時	令和7年7月22日（火）10:00～11:25
場 所	上下水道局庁舎 301会議室
出席者	<p><委員> 高島委員、田村委員、南保委員、林委員、前川委員</p> <p><上下水道局> 塚谷上下水道事業管理者、坂下経営部長、南京事業部長、 箕手経営次長、南事業次長 経営管理課（吉田課長、塚本副課長、辻課長補佐、 野田主幹、中川主幹、白崎副主幹、中村副主幹） 上下水道サービス課（塚本課長） 下水管路課（大島課長） 下水施設課（松井課長）</p>
会議録	
1 委員長、副委員長選出 委員長に南保委員、副委員長に高島委員を選出	
2 議題1 下水道事業経営戦略の策定について ～事務局より説明後、以下質疑応答～	
委員	投資、財政計画シミュレーションに、PPP や PFI 等の外部の資本を導入するような考えはあるのか。
事務局	第2回委員会で詳しくご説明させていただいたが、一部に民間の活力を活用した取組も反映させていくことを検討している。
委員	<p>下水道に起因する事故が起きたことで、注目を集めている。今回の委員会でも中身の濃い議論をしたいと思っている。</p> <p>また、パブリックコメントは、あまり意見が出ないことが多いが、事務局には、市民の発言を引き出せるような取組をお願いしたい。</p>
委員	福井市の下水道は整備から70年を超えており、管路の老朽化が進んでいる。管路更新にあたっては、取捨選択を迫られる時もあると思う。広域に市民がお住まいのため、ここからここまでだけを更新するという判断は難しいと思うが、一方で、そういった視点も少なからず入れなければ、経営の健全化は難しいと個人的には感じている。

委員	<p>消極的な方が一部おられることが挙げられる。</p> <p>経済的な理由で接続が難しいことは、ある程度やむを得ない面もあると思うが、接続していないことで地域社会に不利益が生じていないか。</p>
事務局	<p>下水道に接続していない方は、浄化槽を使用している方がほとんどだと思われる。</p> <p>このうち、合併処理浄化槽を使用している場合は、排水の水質は公共下水道とほぼ同水準である。しかし、トイレからの汚水のみを処理する単独浄化槽を利用している場合は、台所や風呂などからの排水がそのまま河川等に放流されることになるため、好ましい状況ではないと考えている。</p>
委員	<p>下水道汚泥の有効利用についての検討も必要だと思う。例えば、資材として建設部局に販売することや、下水道工事の埋め戻しに活用することでのコストカットなどが考えられる。</p> <p>また、福井市では、下水処理で発生するエネルギーを活用した発電に取り組んでいるが、その発電で、施設の電力をどの程度自給できているのか、その比率も今後の経営に大きな影響があると思う。</p> <p>人材面では、技術者不足は県の土木部門でも同様であり、今後も適正な人員体制が維持されることが望ましいと思う。</p> <p>管渠更新や維持補修の優先順位をどのようにつけていくのかは、効果的に改築するうえで、非常に重要な観点だ。どこに重点的にお金をかけるかといったメリハリが重要だと感じる。</p> <p>福井市はAIを使った下水道の老朽化の検知といった新たな取組を始めていると聞いている。新たな技術をうまく使って、効果的な老朽化対策を進められれば、より良い計画につながるのではないかと思う。</p>
委員	<p>地域別の公共下水道の状況が掲載されているが、水洗化率について、地域別の数値は分かるのか。</p>
事務局	<p>資料の水洗化率については、公共下水道区域における数値となっており、令和6年度については96.1%である。次回の委員会で、地域別の数値をお示ししたいと考えている。</p>

委員	次回、数値を示していただくということをお願いする。
委員	福井市での新たな宅地を増やす等の造成計画と、下水道の整備計画は連動しているのか。
事務局	開発行為等の計画があれば、下水道の整備の検討を行う。場所や、その費用対効果などを踏まえて、ケースバイケースで最適な整備手法を判断することになる。
委員	本日は、下水道事業の多くの課題が浮き彫りになったと感じた。これらの課題にどう対応し、今後の戦略を検討していくか、この委員会でいろいろと知恵を出し合っていく必要がある。